性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会
（第２５期・第１１回）議事要旨

１ 日 時 ：令和４年９月８日（木） １０：００～１２：００

２ 場 所 ：日本学術会議２階大会議室（オンライン併用）

３ 出席者 ：渡辺 美代子、名越 澄子、河野 銀子、髙瀬 堅吉、野尻美保子、
上田 修功、安田 仁奈、能瀬さやか（以上、名簿順）
（事務局） 内山 貴裕、大越 詳一

４ 議事要旨

（１） 学術フォーラムについて

学術フォーラムの資料を確認し、学術フォーラムの流れについても確認を行った。主なコメントは以下の通りである。

- Londa Shiebinger 先生への質問については、会場で答えられるものについては委員が回答し、ご本人に回答を求めるものについては、質問者のご連絡先を尋ねたうえで、委員が Londa Shiebinger 先生へ回答を求めることとした。
- パネルディスカッションでは、ジェンダー×AI、ジェンダー×教育、ジェンダー×学問分野等について主に議論していきたい。ただし、フォーラムの様子を見ながら、適宜、話題を展開していきたい。

（２）見解について

これまでの議論の内容を確認し、その表出方法について議論を行った。主なコメントは以下の通りである。

- 見解案の経過について、現在、科学的助言等対応委員会で審査中である。
- 見解案発出までのプロセスが複数段階あり、査読等審査に時間がかかりすぎるように思う。
- 科学的助言等対応委員会の設置について再検討が必要である。査読を担当する委員会（本見解の場合は科学者委員会）の機能に科学的助言等対応委員会の機能を含めるなど見直す方向でよいのではないか。
- 科学的助言等対応委員会委員を科学者委員会委員が一部兼ねることによって、科学的助言等対応委員会と科学者委員会の認識の共有を円滑にするのがよいのではないか。
- 科学的助言等対応委員会が定期開催でないため、進行が遅れているのではないか。
- 見解案発出までのプロセスが複数段階あり、その影響で発出時期が遅くなると、意思表出後のフォローアップができなくなる。

- 科学的助言等対応委員会からの回答に、回答期限を設けるのはどうか。
- 査読プロセスの変更によって、意思表出に時間がかかるようになったため、日本学術会議の意思表出に時間がかかるという、これまでの課題が深刻化してしまった。日本学術会議としては、本小分科会でまとめた見解案が発出第一号となるため、査読プロセスに関する本小分科会での議論は議事録に残すこととする。

（3）今後の活動について

今後の活動について議論を行った。主なコメントは以下の通りである。

- 省庁との意見交換会での議論は見解案に反映できたが、本日の学術フォーラムで議論された内容については、今後小分科会で議論を深めていくのが良い。
- 学協会との意見交換も積極的に行い、そこで出てきた意見について小分科会で議論を深めていくのが良い。
- 各学協会で Gendered innovations に関する話題があがるように、働きかけていくことが重要である。
- 一般の方に発信していく方法を議論するのが良い。
- 漫画、SNS など、広く社会に届く方法を検討してはどうか。
- 選書のようなかたちで、見解に関連する書籍を紹介していくのはどうか。
- SF プロトタイピングなどの手法でジェンダーの問題を考えるシンポジウムを開催し、そこにメディアの方にご出席いただいて、広く社会に周知していくのはどうか。
- 国際基礎科学年について日本学術会議が作製したビデオは、日本学術会議の予算で作成されている。
- 持続可能な発展のための国際基礎科学年について日本学術会議が動画を作成しているが、マンパワーや予算の問題があり、同様の対応をお願いすることは難しい。
- 日本性差医学・医療学会等の学協会、男女共同参画学協会連絡会等の社団法人、ジェンダード・イノベーション研究所等の機関と協力し、動画作製を進めてはどうか。
- 科学者に 2 ～3 分の動画を撮影していただき、それを記録として残していくのはどうか。
- シンポジウムや学術フォーラムの動画をダイジェストにして、SNS で発信していくのはどうか。
- 日本学術会議の YouTube チャンネルは現在登録者が少なく、検索でも上位にあがらない。また現在はコンテンツも少ないので、相当蓄積する必要がある。シンポジウムの動画があがるようになればかなりいいのではないか。
- サイエンスアゴラの場を活用してはどうか。-国際基礎科学年ではサイエンスアゴラに申し込みをした。

（4）その他

- 次回分科会を 11 月頃に開催し、学術フォーラムの総括、今後の活動について更なる議

論を進めていく。

以上